

巻頭言

好奇心の大切さ  
変化を恐れず挑戦する

千葉商科大学同窓会長  
千葉商科大学教育後援会長

高橋 伸治  
安光 利文

4  
5

特集 1

## 2022年度 学位記授与式

式辞

祝辞

祝辞

卒業生代表挨拶

2022年度卒業生からのメッセージ

一歩踏み出すこと

目標あつての成長

未来につながる4年間

「実行」と「発信」

「勇往邁進」

千葉商科大学学長

学校法人千葉学園理事長

千葉商科大学同窓会長

人間社会学部卒

人間社会学部卒

国際教養学部卒

政策情報学部卒

サービスマネジメント学部卒

人間社会学部卒

国際教養学部卒

原科 幸彦

内田 茂男

高橋 伸治

平岡 慶己

柴崎 亮佑

武田 大

橋本 さくら

渡邊 優哉

林 千尋

7

10

12

14

16

17

18

19

20

特集 2

## 2023年度 入学式

式辞

祝辞

祝辞

新入生代表挨拶

千葉商科大学学長

学校法人千葉学園理事長

千葉商科大学教育後援会長

サービスマネジメント学部

原科 幸彦

内田 茂男

安光 利文

山下 さくら

21

22

26

28

29

特集 3

## 卒業生への証明書発行を活用した「卒業生LINE」の案内

「2022年度なるほどなれっぴコンテスト」最優秀賞 M V V 部門

『やってみる、という学び方。』の実践

商経学部准教授

人間社会学部 4年

サービスマネジメント学部 4年

政策情報学部 4年

根岸 亮平

鈴木 響希

有元 ひなの

大井 一優

37

38

39

40

ゼミ紹介

学生活動紹介

体育会系バドミントン部の活動

チアダンスチームSitter.の活動

文化団体連合会フォーク&ウエスタン研究部の活動

学生開発商品のご紹介

千葉商科大学・千葉商科大学付属高校プレゼント付き寄付がスタートしました！

ニュースイベント

文部科学省「令和4年度私立大学等改革総合支援事業」(タイプ1・3)に  
選定/ほか

CUCレポート

千葉商科大学・千葉商科大学付属高校プレゼント付き寄付がスタートしました！

ニュースイベント

文部科学省「令和4年度私立大学等改革総合支援事業」(タイプ1・3)に  
選定/ほか

41

42

43

	国際センターニュース 韓国の提携大学訪問記 キャリア支援センターニュース 地域連携推進センターニュース キッズ大学2022 スプリングスクールの開催／ほか The University DINING レポート UDLIVEを開催しました／ほか ライブラリーニュース 図書館利用スペースが復活しました！ SONEから読者の皆さまへ 「断熱とは何だろう 市川市でホットな体験をしよう」の講座を開催しました 文化団体連合会・体育会所属各部の活動近況	国際担当顧問 高橋 百合子 川 瀬 功 渡 辺 美 月	46 49 60 58 62
大学からのお知らせ	SDGsに取り組み学生団体の活動紹介動画「千葉商科大学×SDGs」／ほか	人間社会学部2年	64
教育後援会活動	教育後援会報告		65
活躍する卒業生	剣は心なり 人間砂漠	株式会社星医療酸器 代表取締役 株式会社リトープス 代表取締役	星 幸 男 阿 部 弘 之
同窓会活動	■ 本部からの報告 ■ OBからの報告 同窓生のお宿・お店紹介「丸家旅館」 CUC 経営者会議ニュース	昭和47年 商経学部経営学科卒 村 上 房 人	広 報 ・ I T 委 員 会 85 82 77
CUC 経営者会議	千葉商科大学創立100周年に向けて 学生ベンチャー食堂に出席する学生に開業支援金を贈呈／ほか		86
随 筆	舵取り コロナウイルス感染症明けが待ち遠しい	岡山県浅口市長 基礎教育機構准教授	栗 山 康 彦 影 浦 亮 平
著 書 紹 介	「首都・東京の都市政策とソーシャル・キャピタル ―地域振興と市民活動政策のQOLを高め、23区格差を改善するガナシの実現―」政策情報学部専任講師 著者：戸川 和成	戸 川 和 成	92
▼第53期同窓会維持会費納入者一覧 93	▼同窓会役員および支部事務局一覧 94	▼編集後記 96	

# 好奇心の大切さ

高橋 伸治

● 千葉商科大学同窓会長  
(昭52商)



学位記授与式および入学式が、それぞれ挙行されました。今年は最大限の安全確保対策をして、学位記授与式ではご家族の皆さまには会場ではなく、リモートによる配信で行われ、入学式はご家族さまと一緒に会場で行うことができました。卒業生、新入生の皆さん、ご家族の皆さまには、あらためて、「誠におめでとうございます」。

多年に亘る新型コロナウイルス感染症パンデミックを通して、私たちはコミュニケーションの大切さをあらためて実感しました。他人は聞き上手な人にしか、話をしません。しかし、コミュニケーションの方法は誰も教えはくれません。その中で進展したりネットワークを中心としたハイブリッドな働き方はますます拡がっていくことでしょう。ハイブリッド型の新しいタイプのコミュニケーションを学ぶことが必要なときです。

私たち同窓会の理念は、「会員相互の交流と親睦を図り、組織および会員の発展・充実ならびに建学の精神に則った千葉商科大学の発展に寄与すること」であります。創立50年の歴史を重ねた私たち同窓会は、この理念のもとにコミュニケーションを大切にして、これからも大学、教育後援会の皆さまと力を合わせて、社会に旅立つ若者

たちの支援と新たに本学で学ばれる学生たちの発展に邁進して参ります。

野球のWBCにおける日本選手の活躍には目を見張るものがありました。その中でも印象に残ったものは「大谷選手のセーフティバント」です。その瞬間に世界中の誰もが「まさか」と思ったに違いありません。あの選択は大谷選手の好奇心の強さがなせる技であったと考えています。時代を動かすためには、この好奇心が大切です。天才たちは好奇心にあふれているのです。新しいことを始めるときには、新しい人と新しい知識が必要になります。そして、好奇心が起爆剤になります。第二期中期経営計画のもとで「社会が必要とする大学」としての基盤を強化し、「社会科学の総合大学」としての体制を強化することを願っています。

世界はどんどん変化していきます。その新たな流れを的確につかみ、人を大切にする理念のもとに、これからの社会に対応できる私たち同窓会になれるように、大学および教育後援会の皆さまとコミュニケーションしながら、頑張ってください。よろしくお願いします。



千葉商科大学  
同窓会  
Webサイト  
公式ページ  
二次元コード

# 剣は心なり

## 星 幸男

株式会社星医療酸器 代表取締役  
昭和57年 商経学部商学科卒業

昭和53年3月、入学前でありましたが、体育会剣道部の春の強化合宿に参加し、その日から大学生活がスタートいたしました。私の場合、大学生活を楽しむと言うより剣道をするために大学に通うといった方があつていたかもしれません。しかし近い将来、父の会社を継ぐという目標がありましたので、商いに関する学問を学ぶためということももちろん入学の決め手になりました。合宿には全国の強豪高校の選手であった剣士たちが集まっております、ここで先輩方、これから同期で友人になるであろう彼らとはじめて顔を合わせました。剣道の師範は教士



8段岡村忠典先生でした。岡村先生との出会いで、私の人生観は大きく変わりました。人生において自分と波長の合う良き指導者に出会える可能性はそれほど高くはないでしょう。そう考えると私はとても恵まれていたと思います。

それまでの私は、勝負には必ず勝たねばならないという思いで稽古を重ね優勝すること以外は考えていませんでした。

しかし先生は、優勝がすべてではない、剣は心なりと。そうです、心があるから剣は生きる。私はそれまでの自

らの心を深く反省したものです。

「剣は心なり。心正しからざれば、剣また正しからず。剣を学ばんと欲すれば、まず心より学ぶべし。」

負ける相手がいるから勝てる。勝利したならば相手に感謝の気持ちを込めて試合後の礼をするべきであると学びました。

先生から学んだ「感謝の気持ち」は、社会人になり剣道から離れても我が心に深く根付いております。たとえ一期一会であっても出会った人には誰にでも感謝の気持ちをもって接して来たつもりです。

商大で岡村先生に導かれた、愛する剣道。今はまだ叶いませんが、できることならいつかもう一度、友と剣を重ねてみたいと思っております。剣道一筋の大学生活ではありましたが、教員の資格は取得しました。母校の教育実習に行った際にも剣道部に携わることができ貴重な体験をさせていただきました。

卒業後は、クラヤ薬品(現在メデイセオ)に入社、6年間勤務いたしました。ここでも素晴らしい上司、先輩方に恵まれ意味のある年月を過ごすことができました。そして、家業を継ぐため株式会社星医療酸器に入社し現在

に至っております。

ここでチャンスをいただくことができましたので、我が家業であります医療ガスについて少しばかり宣伝させていただきますと思います。

弊社、株式会社星医療酸器(東証スタンダード7634)は、医療用ガスのほか在宅医療支援サービス、介護事業や福祉用具販売など患者さまや利用者さまの生命と暮らしに向き合った事業を幅広く展開しています。医療ガス事業では医療用に特化した各種ガスを扱っております。入院や手術の際に必要なことも多い酸素をはじめ、麻酔用の笑気ガス、内視鏡手術をする際にお腹を膨らませるガスとして使用される二酸化炭素、イボの治療などで使用される液体窒素などです。現代医療において医療ガスは病院のインフラを支える重要な役割を担っています。私たちの仕事を語るうえで大事なことは「医療用ガスの安定供給」。そのためにさまざまな職種のスタッフが日々協力をしながら使命感とプライドをもって生命を守る最前線で尽力してくれています。もうかれこれ12年前になりますが東日本大震災のとき、あれだけの大きな被害が出ていた中で医療機関の状況確認や患者さまの安否

確認のために奔走し、安定供給をし続けているスタッフたちの姿を目の当たりにしたときには本当に誇らしく思いました。

また近年ニーズが高まっている在宅医療において私たちの役割も大きくなってきております。ドクターと連携し、自宅で酸素を吸入できる在宅酸素療法をサポートするサービスが多くの医療機関さまよりご支持をいただいております。ご評価いただいている背景には私たちがスタッフ一人ひとりが昼夜問わず迅速に対応し、患者さまのQOL (Quality of Life: 生活の質) 向上に一生懸命に取り組んでいる姿があると思います。

自宅で酸素を使用される患者さまの中には、まだ生まれたばかりの小さなお子さまから、末期がんで最期を見るために酸素を処方された方まで幅広い患者さまがいらっしゃいます。患者さまやご家族から「この酸素があったお陰でとても助かりました。本当にありがとうございます」と深々と頭を下げられ感謝の言葉をかけていただくこともあり、改めて私たちの仕事の意義について深く考えることがあります。これからたくさんさんの生命をつなげられるよう自分たちの手で確実に酸素を届ける、

患者さまと医療機関との懸け橋になる、「星イズム」を大切にしていきたいと思えます。

星医療酸器の事業やサービスにご興味のある方、一緒に働いてみたいと思ってくださった方は、ぜひ弊社ホームページをご覧ください、お問い合わせいただけましたら幸いです。



株式会社星医療酸器  
Webサイト



# 人間砂漠

## 阿部 弘之

株式会社リトープス 代表取締役

エスベランサグループ 代表

平成23年 大学院政策研究科博士課程修了

私は幼い頃から天涯孤独で、生きるためにくず鉄やパチンコ玉拾いなどをしてきました。親戚の家へ奉公に行ったところ、ここでは想像を絶する虐待が待ち受けていました。その後もさまざまな困難がありました。そんなときでも前向きに考えて、必死に生き抜いてきました。朝日新聞出版から上梓しました『人間砂漠』という本はそういった私自身の生い立ちと人生について、率直に書き記そうとしたものです。自分自身が経験したことを包み隠さず書き出すことで、同じような境遇にいる人たちに勇気や希望を与えたいという思いがあったのです。



私が幼い頃に経験した孤独や貧困、そして暴力やいじめに苦しんだ体験は、私にとって強いトラウマになりました。ですので自分自身の人生を書き出すことは、正直に申し上げて非常に辛い作業でした。しかし、この本を書くことで人生を改めて振り返ることができ、過去の自分と向き合うことができました。出版に至るまでの過程で多くの方々の協力やサポートがあったことに大変感謝しております。

この本を読んでくださった方や、現在苦しんでいる方々が、私の人生を通じて少しでも勇気や希望を見出す

ことができたなら、それは私にとって大きな喜びであり、報いでもありません。また、本書では私が学んだことや体験したことから、成功へのヒントや人生における重要な価値観についても触れています。

私が博士号を取得したことや、要人の方々と交流もめたことは、私にとつて非常に貴重な経験であり、そこから得た気付きを通じて、読者の人生に役立つアドバイスを提供できればと思っています。人生にはさまざまな困難があるかもしれませんが、前向きな姿勢で取り組むことが大切であり、それによって自分自身が成長し、周りの人たちにも影響を与えることができるということを実感しております。

私の人生は、決して平凡ではありませんが、それでも自分の力で逆境を打ち破ることができるということが証明できたと思っています。読者の方々にも、自分の力で困難に立ち向かっていく勇氣をもつてほしいと強く願っております。また、いじめの問題や社会的弱者の支援について、より多くの人々が関心をもち、取り組んでいただけることを願っています。

私が千葉商科大学において書かせていただいた『仲間

資本による起業の構造分析』という主題の博士論文も、より多くの方が困難に立ち向かい、成功してほしいという願いから始まっております。起業家もつべきスキルやマインドセット、資金調達などの具体的なアドバイスを整理することで、起業に興味がある人たちが成功するための一助になることを期待したのです。

私自身が起業家として複数の会社を経営してきた経験から、日本人が起業に興味があるにもかかわらず、起業率が低いことに疑問をもちました。日本人が勤勉であるにもかかわらず、起業率は世界の最下位にあることがわかり、これは我が国が無形資産を生かしきれないことを意味していると考えます。しかも、脱サラして起業した例が少なくないにもかかわらず、10年経過すれば多くは倒産してしまいます。これは起業家育成政策だけでなく、起業家自身の問題でもあります。

日本の起業率が低い背景には、社会的な価値観や文化的な要因があることも理解しました。日本では、大手企業に就職することが一般的であり、起業家として成功することはあまり評価されていません。また、起業に必要なりスクを負うことに対する社会的な圧力も大きいと



感じます。これらの問題に直面しながらも、私たちは日本の無形資産を生かし、起業家率を向上させることが求められていると思います。

私は自身の経験から、起業家は一人で成功することはできず、仲間やパートナー、顧問などの支援を受けることが必要だということを確信しております。そして、そういった仲間資本を生かすことが、起業家の成功につながるという結論を得ました。仲間資本とは、起業家自身もつ資本だけでなく、家族や友人、知人などのネットワークから得られる資本、またはそのネットワークそのもののことです。これは、日本人が社会的つながりを大切にしている文化的背景とも関連があると思われます。

起業に興味がある人々が、この論文が少しでも役立つこと、自身のネットワークを構築・活用し、成功するためのヒントを得られることを願っています。この研究を通じて、起業家が成功するために必要な要素が多岐にわたることを学んだ一方、日本における起業家育成政策の現状には疑問ももち続けています。論文が書かれた後も時代は変化し、起業家育成政策においても課題が残されていることを感じます。

今後も起業家として、社会の変化に対応しながら貢献できる仕事を続けていきたいと思っています。

人間砂漠 **上** **下** あいヒロシ  
(あべヒロユキ)

好評発売中！

逆境を糧とし、感謝を忘れず  
前に進み続ける



著書の詳しい情報は  
Webサイトをご覧ください